

## イザヤ書53章 「代わりに傷を受けられた方」

### 1A 蔑まれた方 1-3

### 2A 病を負われた方 4-6

### 3A 裁かれた方 7-9

### 4A 義とされた方 10-12

## 本文

イザヤ 53 章を開いてください。私たちは、イザヤ書の学びで、キリスト者にとっては、最も有名な箇所に入ります。なぜなら、私たちはこのことを信じて、それで罪が赦され、御霊によって新しく生まれ、救われたからです。主のしもべ、キリストが私たちの罪の身代わりになって死なれ、三日目によみがえられたからです。この箇所をじっくり、見つめていきたいと思います。そして、パウロがエペソの教会のために祈ったように、「その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるか理解する力を持つようになり、人知をはるかに超えたキリストの愛を知ることができますように。」となるよう、祈りたいと思います(3:18-19)。

イザヤの預言は、49 章から、「主のしもべ」ということで、メシアがこの地上でへりくだった、一人のしもべとして紹介されています。みことばを語る方を、矢筒の中に隠された矢のようにされた預言。つまり、へりくだって、優しく、痛んだ人たちを立ち上がらせる方として紹介されています。それから、弟子のようにされて、主がこのしもべに、ご自分のことばを与え、また、耳を開かれたこと。これは奴隷が、耳をきりで刺し通されたことを意味します。神のみこころにしたがって、打ってくる人にも、背中を任せて、侮辱されて、唾をかけられても、顔を隠さなかった者として描かれています。そして 53 章です。ここでは、ついにその侮辱は、打たれて傷を受けた者、病を負った者となり、罪人と共に数えられ、死ぬことに至るのです。しかし、これまでも、それでも主からの報いがあるとして、希望がありました。その希望とは、死者からのよみがえりなのだということも教えています。

### 1A 蔑まれた方 1-3

<sup>1</sup> 私たちが聞いたことを、だれが信じたか。主の御腕はだれに現れたか。

ここの「私たちは」とは、イザヤ 51 章から出てくる、患難の中でも、なお主の義を求める残された者たちのことです。彼らは、打ちひしがれていましたが、主から大きな慰めと励ましのことばをかけられて、元気づきます。そして、「目覚めよ、目覚めよ。力をまとえ、主の御腕よ。(51:9)」と、主を、「御腕」と呼んでいます。かつて、主が、力強い御手でエジプトを倒し、自分たちを連れ出してくださいましたように、自分たちを苦難から救い出してくださいと呼び求めているのです。

そして、終わりの苦難の時に、主が力をもって来られるのです。ところが、それが人々を驚き恐れさせました。52章の最後、13節から15節です。「見よ、わたしのしもべは栄える。彼は高められて上げられ、きわめて高くなる。多くの者があなたを見て驚き恐れたように、その顔だちは損なわれて人のようではなく、その姿も人の子らとは違っていた。そのように、彼は多くの国々に血を振りまく。王たちは彼の前で口をつぐむ。彼らが告げられていないことを見、聞いたこともないことを悟るからだ。」王の王、主の主として栄光と力を持って来られた方が、その顔立ちが損なわれていて、その姿が人のようではなかったとして、口をつぐんでいるのです。こんなことがあっていいものか？と悟るのです。王の王、主の主として来られる方が、どうして、人々に蔑まれ、打たれ、ついに傷ついて目を背けたくなるような姿になり、死なれた方だと思ふのか？ということです。

そしてここでは、「私たち」、つまり残りの民が驚愕しているところなのです。大患難の中で、自分たちを救いに来られた残りの民が、こんなことがあっていいものか、信じられないと驚いているのです。ゼカリヤも、このことを預言しました。「ゼカ 12:10 わたしは、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと嘆願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見て、ひとり子を失って嘆くかのように、その者のために嘆き、長子を失って激しく泣くかのように、その者のために激しく泣く。」ヨハネも、黙示録で、「見よ、その方は雲とともに来られる。すべての目が彼を見る。彼を突き刺した者たちさえも。(1:7)」とっています。

同じヨハネは、福音書で初めにメシアが来られた時に、この方を受け入れなかったときに、この箇所を引用しました。「12:37-38 イエスがこれほど多くのしるしを彼らの目の前で行われたのに、彼らはイエスを信じなかった。それは、預言者イザヤのことばが成就するためであった。彼はこう言っている。「主よ。私たちが聞いたことを、だれが信じたか。主の御腕はだれに現れたか。」

<sup>2</sup> 彼は主の前に、ひこばえのように生え出た。砂漠の地から出た根のように。彼には見るべき姿も輝きもなく、私たちが慕うような見栄えもない。

主のしもべが、「ひこばえのように生え出た」ということですが、下の注釈に「木の脇芽」とあります。ウィキペディア「蘗」にも、「蘗とは、樹木の切り株や根元から生えてくる若芽のこと。」とあります。これは、明らかに11章1節で、すでに預言していたメシアのことを指しています。「エッセイの根株から新芽が生え、その根から若枝が出て実を結ぶ。」メシアが、イスラエルの民が虐げられ、切り取られたようなところから、それでも生命を出して、人々に益をもたらす大きな木になるというようなイメージです。

そして次に、「砂漠の地から出た根のように」とあります。乾燥して、土がとても堅いところであり、イエスが育ったところは、ナザレでした。主が大人になってから、その会堂で律法を読まれて、ご自身がキリストであることを宣言しましたが、そこにいたユダヤ人たちは信じませんでした。イエ

スを崖から突き落とそうとしたのです。あまりにももの不信仰で、多くの奇跡が行なえなかったことも福音書に書かれています。

さらに、「見るべき姿も輝きもなく、私たちが慕うような見栄えもない」と告白しています。イエスが、王にあるような見目麗しい姿はなかったということです。サウルが、イスラエルの王として選ばれた時に、「Iサム 9:2 彼は美しい若者で、イスラエル人の中で彼より美しい者はいなかった。彼は民のだれよりも、肩から上だけ高かった。」とあります。王の王、主の主であれば、それなりにハンサムさが問われるでしょう。しかし、何もそういったものはなかったのです。

イエス様が、神の国が地上で始まるにあたって、諸国の民を集めて裁かれる場面が、マタイ 25章にあります。「25:40 あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、それも最も小さい者たちの一人にしたことは、わたしにしたのです。」と言われました。見下され、苦しい思いをしている人々にこそ、実は主の姿が見えるということです。

<sup>3</sup> 彼は蔑まれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で、病を知っていた。人が顔を背けるほど蔑まれ、私たちも彼を尊ばなかった。

これは、まさに主がエルサレムに入れ、ゲッセマネの園のところで捕らえられてからの道筋を預言しています。大祭司カヤパとサンヘドリンが、イエスが死に値すると決めた後、「マルコ 14:6 そして、ある者たちはイエスに唾をかけ、顔には目隠しをして拳で殴り、「5 当ててみろ」と言い始めた。また、下役たちはイエスを平手で打った。」とあります。主イエスは、このように蔑まれました。のけ者にされました。悲しみの人であり、病を知っていました。ここの病とは、内科的なものよりも外科的な病、打たれたり、縛られたり、最後は釘で突き刺されたりした結果、傷を受け、体に異変が出てくるところの病です。

それが、「人が顔を背けるほど蔑まれ、私たちも彼を尊ばなかった。」とありますね。十字架の罪状書きには、「ユダヤ人の王」とありますが、栄光ある王がこんな無残な姿になっていることを、だれが尊ぶことができるのか？ということです。十字架刑は、さらし者にするために大通りで行われますが、だれもが目を背けなくなる光景です。

## **2A 病を負われた方 4-6**

ここまでが、主のしもべの生涯とその行き着いた姿を告白しています。けれども、なぜ、主のしもべが、神に引き上げられ、すべての者の王になられた方が、こんなにも無残な姿になったのか？それを、残りの者たちが大胆に告白します。

<sup>4</sup> まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みを担った。それなのに、私たちは思った。神に罰

せられ、打たれ、苦しめられたのだと。

「私たちの病」「私たちの痛み」と言っています。彼ら自身の病や痛みのために、身代わりになったということです。イザヤは、1 章で、イスラエルの反逆を傷を受けている姿として預言していました。「1:5-6 あなたがたは、反抗に反抗を重ねてなおも、どこを打たれようというのか。頭は残すところなく病み、心臓もすべて弱っている。足の裏から頭まで健全なところはなく、傷、打ち傷、生傷。絞り出してももらえず、包んでももらえず、油で和らげてももらえない。」神に反抗し、罪を犯しているのは、神の心を傷つけ、また隣人を傷つけますが、罪を犯している本人たちも、自傷行為をしている、ということです。神のかたちに造られた者が、神の言われることに反することをしている時、そのかたちを損なわせ、傷をつけているのです。

預言者エレミヤは、イスラエルの民の犯した罪、悪、不法について、それを等閑視して、「あなたは大丈夫ですよ」と言っている、預言者や祭司たちに対して、「6:14 彼らはわたしの民の傷をいいかげんに癒やし、平安がないのに、『平安だ、平安だ』と言っている。」と言いました。罪が取り除かれてこそ、その時に癒しがあり、平安があります。

そこで、主のしもべが、反抗している者たちのために、その肉体に傷を受けられたのだということです。この身代わりの働き、代償の働きは、聖書の初めから主は、明らかにしておられました。数々のいけにえです。罪を犯したアダムとエバに対して、皮の衣とくださいました。そして、アベルの羊のいけにえを受け入れられました。ノアが、洪水が引いた後で、いけにえを献げて、主はその香りをかいで、もはや水で世界を裁くことはすまいとされました。そして、アブラハムを召し、彼がシェケムについて、祭壇でいけにえを献げて、主は、この地をあなたに与えると約束されました。そして、シナイ山で、主はいけにえの制度をイスラエルに与えられ、それが幕屋で、また神殿ですと行われてきたのです。青銅の祭壇のところで、牛や羊を屠り、その血を注ぎかけ、からだは火で焼くことは、民の罪のゆえ、身代わりになっているのです。

そして、「それなのに、私たちは思った。神に罰せられ、打たれ、苦しめられたのだと。」と言っています。残りの民は、神がそうされたのだと言ったものの、次の 5 節で、私たちの背きのためだと言っています。それは、ただ自分たちが、メシアが虐げられた原因を作っていることを告白するためですが、しかし、神がそうされたというのは、正しい発言なのです。

主のしもべは、しもべです。主なる神がそう命じられるから、身代わりに傷を受けられたのです。神がご計画されていて、神が定められて、それで身代わりに苦しめられたのです。ペテロが、ユダヤ人たちにこう説教しました。「使 2:23 神が定めた計画と神の予知によって引き渡されたこのイエスを、あなたがたは律法を持たない人々の手によって十字架につけて殺したのです。」イエスを、ローマ人に引き渡して、十字架につけて殺したのは、ユダヤ人の指導者たちです。けれども、それは

予め、神に知られており、神によって定められ、計画しておられたことなのだと思います。

<sup>5</sup>しかし、彼は私たちの背きのために刺され、私たちの咎のために砕かれたのだ。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、その打ち傷のゆえに、私たちは癒やされた。

背きのために刺された、また咎のために砕かれたと言っています。「砕かれた」とは、言い直していますが、打たれて傷を受けることです。これは、ローマの十字架刑に至る道を、知っているからこそ使える表現です。ローマは、十字架刑の前に、その犯罪人に対して自白を強要させるため、むち打ちをします。イエス様は、もちろんこのむち打ちを受けられ、福音書にも書き記されています。むちには、鉛やガラス、動物の骨の破片などが入っています。罪人は、背中をすべてローマ兵に見せます。そして、むちを打てば、ただ赤く腫れあがるのではなく、肉片がちぎれ飛びます。大量の出血がでます。その失血で、途中で死んでしまう者たちもいました。そして、打ちどころが悪ければ顔にも鞭が当たります。だから顔も滅茶苦茶になり、目も飛びぬけることがあります。メル・ギブソン監督の映画「パッション」は、この史実に忠実に、むち打ちの場面を再現させました。

そして、驚くべきことを告白します。「彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、その打ち傷のゆえに、私たちは癒やされた。」というものです。なぜ、この恐ろしい懲らしめが平安をもたらすのでしょうか？打ち傷が癒されるのでしょうか？それは、本来、自分が受けなければいけない懲らしめ、また打ち傷が、この方が受け取っておられることを知るからです。そして、この方の上に、罪ゆえの傷が置かれ、この方のいのちと平安が、私たちに与えられます。

<sup>6</sup>私たちはみな、羊のようにさまよい、それぞれ自分勝手な道に向かって行った。しかし、主は私たちすべての者の咎を彼に負わせた。

イスラエルの民にとって、羊は身近な存在です。羊がどのような存在かを知っています。羊は一度迷うと、本当に元の群れのところには戻れません。そして自分で判断できません。前に崖があって、自分の前にいる羊がどんどん落ちていっているのに、本当に目の前の草しか目に入っていないから、いっしょに落ちていきます。イエスが、一匹の迷った羊のために探しに行く羊飼いにについて語られましたが、日常の光景だったのです。それがまさに、自分たちであると告白しています。自分勝手な道に向かっていました。ですから、滅びるのは自分たちだということです。ところが、主は、自分たちのすべての咎をこの方に負わせたということです。

ところで、この箇所は、二カ所で、新約聖書で引用されています。そこから興味深いことが分かります。一つは、主がいろいろな人を癒されていた場面です。「マタ 8:16-17 夕方になると、人々は悪霊につかれた人を、大勢みもとに連れて来た。イエスはことばをもって悪霊どもを追い出し、病気の人々をみな癒やされた。これは、預言者イザヤを通して語られたことが成就するためであった。

「彼は私たちのわずらいを担い、私たちの病を負った。」主が、アダムが罪を犯したゆえに広がった、肉体における病を癒される時に、このことばが成就しました。そして、使徒ペテロは、罪の赦しの時に、この言葉を引用しています。「Ⅰペテ 2:24-25 キリストは自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒やされた。あなたがたは羊のようにさまよっていた。しかし今や、自分のたましいの牧者であり監督者である方のもとに帰った。」

したがって、主が行われたことは、罪という霊的な病のために打ち傷を受けられたということもあり、また肉体の癒しのためにも受けられています。それゆえ、私たちが、このことを思い出すために、主が定められた食事、聖餐式において、パンを受け取る時、罪の赦しによる癒しのみならず、肉体の癒しも期待してよいのです。

### **3A 裁かれた方 7-9**

このように、主がむち打ちによる懲らしめを受けられました。続けて、主のしもべは、罪人とともに死刑に定められます。

<sup>7</sup> 彼は痛めつけられ、苦しんだ。だが、口を開かない。屠り場に引かれて行く羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。

福音書の、主がユダヤ人議会で死刑に定められ、ローマの十字架にまでに至る過程を見ると、すべてにおいて、無理にでもそうしなければ、この方には罪は見出されないのです、すぐに釈放される勢いを見て取れます。ユダヤ人の裁判において、不利な証言がされているのに、黙っておられるので、大祭司がしびれをきらして、「おまえは神の子キリストなのか、答えよ。」と問い詰めている場面が出てきます(マタイ 26:63)。

そして、総督ピラトが、主をむち打ちで懲らしめた上で、人々の前に出したのに、それでも「十字架につけろ！」と彼らが叫ぶので、無罪だと知っているピラトは、恐ろしくなり、焦りました。「ヨハ 19:9-10 そして、再び総督官邸に入り、イエスに「あなたはどこから来たのか」と言った。しかし、イエスは何もお答えにならなかった。そこで、ピラトはイエスに言った。「私に話さないのか。私にはあなたを釈放する権威があり、十字架につける権威もあることを、知らないのか。」このようにして、十字架刑に定められるのに、敢えて口を開かずに、定められるままにされたのです。その様子が、まるで、屠り場に引かれているのになんら抵抗しない羊、毛を刈る者の前で黙っている羊のようであると、形容しています。

ところで、十字架についての預言は、さらに詳しく詩篇 22 篇にあります。イザヤのこの預言では、むち打ちのほう詳しく預言されていますが、十字架については、ぜひ 22 篇をお読みください。そ

の描写は、十字架に磔にされた人のほうの声を聞くことができます。

<sup>8</sup> 虐げとさばきによって、彼は取り去られた。彼の時代の者で、だれが思ったことか。彼が私の民の背きのゆえに打たれ、生ける者の地から絶たれたのだと。

誰も思いませんでした。だから、ユダヤ人の指導者も、ヘロデもピラトも、十字架につけてしまったのです。弟子たちには、何度となく主は前もって語られたのに、それでも信じなかったのです。栄光の主が、虐げとさばきによって取り去られるというのは、彼の時代ではだれも想像できませんでした。「I コリ 2:8-9 この知恵を、この世の支配者たちは、だれ一人知りませんでした。もし知っていたら、栄光の主を十字架につけはしなかったでしょう。しかし、このことは、「目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、人の心に思い浮かんだことがないものを、神は、神を愛する者たちに備えてくださった」と書いてあるとおりでした。」

<sup>9</sup> 彼の墓は、悪者どもとともに、富む者とともに、その死の時に設けられた。彼は不法を働かず、その口に欺きはなかったが。

この一言、一言が成就しました。主は、悪者と共に死の時に設けられました。罪人の一人に数えられました。ところが、「富む者とともに」そうであったとあります。サンヘドリンの議員の一人で、アリマタヤのヨセフが金持ちで、安息日に入る直前に十字架からイエスを取り下ろし、「岩を掘って造った自分の新しい墓に納めた。(マタイ 27:60)」とあります。十字架の犯罪人であれば、ただ、掘った穴のところに投げ入れるだけでした。けれども、このように富む者の墓で葬られたのです。

最後に、「彼は不法を働かず、その口に欺きはなかったが」と言っていますね。これが、主のしもべの死の不思議なのです。罪人と同じように、激しい虐げによって死刑にされたのに、しもべ自身に、不法や欺きはなかったのです。イエスご自身について、裏切ったイスカリオテのユダでさえが、罪を彼は犯さなかったとして後悔しています。裁判官であった総督ピラトが、無実であることをはっきりと言いました。そして、十字架刑の執行人として立ち入っていた百人隊長が、「本当にこの方は正しい人であった。」と証言したのです(ルカ 23:47)。

#### **4A 義とされた方 10-12**

これまでの預言にも、主のしもべについて、神は報いを備えておられることを見ることができました。それは何か？この方がよみがえり、そしてその残酷な死が、罪の赦しのためであり、悔い改めた者たちを義とするということです。

<sup>10</sup> しかし、彼を砕いて病を負わせることは 主のみこころであった。彼が自分のいのちを 代償のさげ物とするなら、末長く子孫を見ることができ、主のみこころは彼によって成し遂げられる。

主のみこころは、しもべのいのちを、代償のささげ物とすることでした。

そして、この働きを全うしたならば、「末長く子孫を見ることができ」と言っていますが、その主語は「彼」です。つまり、しもべ自身です。これは、しもべが死んだのに、よみがえったことを意味しています。よみがえって、ご自身の死によって、罪の代償が献げられ、それで、ご自身を信じる者たちが、末永く与えられることを見ることができるといことです。

<sup>11</sup>「彼は自分のたましいの 激しい苦しみのあとを見て、満足する。わたしの正しいしもべは、その知識によって多くの人を義とし、彼らの咎を負う。

主のしもべが、満足しています。それは、その激しい苦しみが、ご自身を知る者たちに義をもたらしているのを見ているからです。そのためにご自身が罪がないのに、咎を負ったからです。ヘブル 12 章 2 節に、こう書いてあります。「この方は、ご自分の前に置かれた喜びのために、辱めをもとせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されたのです。」主は、神の右の座に着いておられます。そこで、本当にご自身のされたことに満足しておられるのです。

「わたしの正しいしもべは、その知識によって多くの人を義とし」とありますね。このしもべの正しい行いによって、多くの人が恵みによって義とされるということです。この方が罪人とみなされたことによって、罪人が義人とみなされるのです。「Ⅱコリ 5:21 神は、罪を知らない方を私たちのために罪とされました。それは、私たちがこの方において神の義となるためです。」

<sup>12a</sup> それゆえ、わたしは多くの人を彼に分け与え、彼は強者たちを戦勝品として分かち取る。彼が自分のいのちを死に明け渡し、背いた者たちとともに数えられたからである。

主は、ご自分のしもべを、戦いの将軍のようにし、多くの人たましいを戦勝品のように、分捕り物のようにして与えられるとしています。これは、闇の勢力がいることを前提にして語っておられるからです。「ヘブル 2:14-15 そういうわけで、子たちがみな血と肉を持っているので、イエスもまた同じように、それらのものをお持ちになりました。それは、死の力を持つ者、すなわち、悪魔をご自身の死によって滅ぼし、死の恐怖によって一生涯奴隷としてつながれていた人々を解放するためでした。」

<sup>12b</sup> 彼は多くの人を罪を負い、背いた者たちのために、とりなしをする。」

何度も何度も、イザヤは、しもべが、身代わに死に、身代わりに死刑に定められたことを語り、そして最後に、「背いた者たちのために、とりなしをする。」と言っています。これは、神の右の座において、ご自身の行われた働きによって、罪を赦してくださいと執り成しておられるということです。十



十字架の上で祈られた、彼らは何をしているのか分からない、赦してくださいという祈りを、右の座に着いておられるところでも、執り成しておられるということです。「ヘブル 7:25 したがってイエスは、いつも生きていて、彼らのためにとりなしをしておられるので、ご自分によって神に近づく人々を完全に救うことができになります。」

主のしもべの働きが、へりくだったしもべから、人の反抗に耐え忍ばれる方へとなり、最後はこのように、民の背きのために懲らしめを受け、死なれ、よみがえられて、その代償のゆえに多くの人を義とする働きへと昇華されます。そして、このことを悟るのは、イスラエルの残りの民が主が再来される時に、この方の姿を見るときだということです。

もちろん、聖霊が注がれて、このことを前もって知っているのは、イエスを信じたユダヤ人たちであり、また同じように信仰をもった異邦人たちです。そしてその両者が、キリストのからだにおいて一つとされています。教会です。

今回は、民の背きの罪が赦された後の、慰めを受けたエルサレムが、その屈辱が取り除かれる幻を読んでいきます。